

2018. 5. 30 (水)

大学生とは、4年間大学というテーマパークを使い放題できる存在である

清水 裕士

関学とディズニーランドは似ている

いつも学生さんの前で講義はしているのですが、こういうところでされると、緊張しますね。「大学生とは何者か?」というお題を頂いて今日はお話するのですが、最初に導入の話をしようと思います。

唐突ですが、僕はディズニーランドが好きで、大体年に1回はディズニーランドに行きます。ディズニーランドが魅力的なことを語ると、これで30分かかってしまうので、それは置いておくとして、今日は、関学あるいは大学と、ディズニーランドのようなテーマパークの類似性について話をしようと思います。

僕は関学の中学部から高等部、大学の社会学部を経て、一応皆さんの先輩ということになりますが、僕が学部生のときから大学のキャンパスはそれほど変わっていません。社会学部は大きく変わりましたが、こういう建物はなかったですが、全体的にはあまり変わっていません。

何か、ふと、これは誰かに教わったのか、僕自身が発見したのか、今は覚えていません。僕自身が発見したことにしておこうと思いますが、関学のキャンパスの形状は面白いのです。あまりキャンパスの中から外が見え

ません。ディズニーランドも同じような構造になっています。ディズニーランドは、シンデレラ城や高い建物から外は見えますが、あまり外側から見えませんが、中側からは外の景色（電車や建物）が実は見えないようになっています。

関学のキャンパスは、今日は雨ですけれども、ちょっと見てみてください。社会学部ここは端っこですが、ちょうどいい感じに壁があります。こっち側は宣教師の方の家がたくさん建っているので、外側が見えません。正門は学園花通りがきれいに見えるのですが、それ以外は、ちょうど木がいい感じに生えています。なかなか外が見えないようになっているのです。結構ディズニーランドに似ているなと思って、これは何か狙って造っているのではないかと思ったりしました。

実はUSJは阪神高速が見えて、「ああ」と少し残念な気持ちになったりします。中から外が見えない、そういう造りはどういうことがあるのかなと考えた中で、僕が思ったことを今日はお話ししようかと思います。

授業と学位だけが大学ではない

大学教育とエンターテインメントが似ているという、怒られそうな感じもしますけれ

ども。テーマパークと遊園地は、また違いますよね。

どうでしょう。皆さんはディズニーランドに行ったことはありますか。あるいはユニバーサルスタジオでもいいです。いやゆる「遊園地」とは結構違いますね。遊園地は、その中にある遊具、アトラクションともいいますが、そういうもので遊ぶのが目的となっていて、昔のエキスポランドは、アトラクションごとにお金を払うタイプでした。フリーパス券もありましたけれども、基本的にはアトラクションごとにお金を取るスタイルでした。しかしテーマパークは、中に入るのに入場料を払って、あとはいろいろ、ビッグサンダー・マウンテンなどでお金は取られないと思います。そういう形で、一度お金を払えば中では遊び放題のつくりになっています。

例えば、専門学校は、僕は行ったことはありませんが、ある種の授業のようなものに対してお金で対価を払う。得られる資格なり、そういうものが非常に明確で、そういうものに対して、お金を払う形式です。一方で、大学はどうか。そんな話をしようと思います。

最初に言ってしまうのですが、「大学生とは何者か？」ということですが、僕が今日お話しするのは、4年間分の年間パスポートを持っている人たちだ、という話をしようと思います。いうならば、大学はテーマパークに似ていて、そこで遊び放題、学び放題です。そういうことなのかなと思っています。

まず授業。大学で行われる授業は、1年生になると、シラバスは—今はたぶん紙ではなくネットで見ていると思いますが—僕のときは非常に分厚いものを見ていました。あれを見て、「何を受けようかな」と。1年生のときは、自分で自由に授業を組み立てることも

すごく面白くて、いろいろ見ていました。あれもまさにディズニーランドに行く前に、「何で遊ぼうかな」と見ているのと近いような楽しみがあると思います。

「ここをこう行って、こう行って、月曜に何限入れて」というのも、限られた時間の中でどのように回っていかうかなと。「ビッグサンダー・マウンテンのファーストパスをここで取って、それを待っている間に、ここでおいしいものを食べて」と、いろいろと組み立てるわけです。そういうのは非常に楽しいですね。

皆さんは1年生が多いのでしょうか。たぶん、ほとんど1年生ですね。3年生も少しいますが、今それを楽しんで、春学期、大学というものの感じをいろいろと楽しんでいるのかなと思います。

そのように考えると、授業はアトラクションのようなもので、高校にはいないようなタイプの教員が前に立って、おそらく高校では言わなかったような話、あるいは勉強できなかった話を聞いている。そのような形で、授業を組み立てて、いろいろ聞いている。

そういうことを1年間やっていくと、今、2年生もいるかもしれませんが、「何となくこんな感じかな」というのが分かってくると思います。授業の単位を取る。まだみんなは試験を受けていないから、大学の試験がどのようなものかもまだ分からないと思いますが、1年経って、春学期、秋学期が終わると、「ああ、こんな感じで単位は取れるな」あるいは、「先輩が言っていた落単って、こういうことか」「この授業を取っておいたほうがいいよって、なるほどな、これは単位が取れるわ」あるいは「面白いな」と、いろいろ分かってくると思います。

2年生ぐらいになってくると、大学の過ごし方がある種見えてきて、いい感じの手の抜き方、あるいは悪い感じの手の抜き方が分かってくると思います。2年生の後半あるいは3年生になってくると、社会学部の場合はゼミの活動が入ってくるので、またそれはそれで面白い生活が始まりますが、授業を受けて単位を取る。おそらく、卒論もどうなるかまだよく分からないけれども、このような感じで卒業していくのかな、という雰囲気を1年後には感じると思います。

今日僕が言いたいのは、そういう話、つまり授業だけをとって大学を使うという話ではなく、そこから先の話というか。それって結局は、アトラクションを一個一個回っているだけです。エキスポランドの楽しみ方とあまり変わらないのです。

この授業を取ってみようと、全部取ることはないと思いますが、大体興味のあるものは全部回ったと。「ああ、こんな感じが、ディズニーランド」という感じで、「そろそろ、お土産でも買おうかな」となるわけです。それも一つの大学の楽しみ方ではあって、大学生の9割5分は、そういう感じで大学を卒業していきます。それで学位は大きなミッキーのぬいぐるみのようなものです。それを記念に持って帰って、大学を出る。そういう感じですね。

今日僕がお話したいのは、大学生は4年間分の年間パスポートを持っているという話です。何かのテーマパークなどの年間パスポートを持っている人はいますか。持っていないですか。普通は持っていないですね。僕も実は持っていません。ディズニーランドの年間パスポートは非常に高いので持っていませんが、年間パスポートを持ってテーマパー

クで遊ぶようになったら、おそらくというか、間違いなく、一個一個のアトラクションを全部遊び尽くします。そっこう終わりますよ。

僕はディズニーランドに十何回行っていきますけれども、大体どのアトラクションも乗り回しました。子どもが遊ぶようなクルクル回るものも、大人になって乗りました。そういう中で年間パスを持っていたら、「こんなものか」と思って、「パークの外のご飯を食べようか」という感じになってしまいがちです。でも、それだけだともったいない。せっかくディズニーランドが用意した、あるいは関西学院という大学が用意した、大学のいろいろなもの、隠れミッキーではありませんが、本当に細かいところに目を向けて、楽しんでもらえたらいいかなと思うわけです。

僕は、何せ、関西学院は、中学部、高等部、大学、そしてポスドクも3年間は関学で、教員として戻ってきましたから結構長いわけです。まだこっちに戻ってきて4年ぐらいいしか経っていませんが、大学のこと、関学のことをそれなりに知っていると思います。今日は、ディズニー好きではなくて、関学好きかどうかは分かりませんが、その僕が教える大学の楽しみ方です。みんな知っていることもあると思います。あまりマニアックなことを言うと、「そこまでは……」と思うかもしれないので、マニアックなことは個別に聞いてください。3つくらいお伝えしようと思います。

図書館と教授は使い放題

まず1個目です。年間パスポートと言っているだけで分かると思いますが、基本的には使い放題のものがたくさんあります。まず

は図書館。どうでしょう。たぶんみんな使ったことがあると思いますが、おそらく課題が出たときに本を借りに来る。ゼミの課題で「こういう文献を読んでね」「基礎演習のやつで読んでね」と言われたから借りに来るという感じだと思います。

図書館のいいところは、借りるときに隣の本も目に入ることです。社会学の本は300から始まりますから、2階に上がってすぐのところ。図書館にどのような本棚があるのか、一回本棚を、ぼーっと見てみてください。いろいろな本があります。よかったら2階をぐるりと回ってみてください。政治学も経済学もいろいろありますけれども、借り放題です。僕の知っている変わった知り合いの先生は、「俺は大学に入った。図書館使い放題、よっしゃあ！」と。301番台や、社会心理学は301.15でしたか。全部読もうと言って、1個ずつ全部読んでいきました。それは結構無駄なやり方ですが、全部一冊一冊読んでいくというやり方をしました。

関学の図書館は、今でもそうでしょうか。どうでしょう、僕が大学に入ったときにアピールされたのは、全開架の図書館だということです。すなわち「職員の人を取りにいけないと借りられない」（これを閉架という）という本はない。皆さんが自分で本を直接取りに行くことができます。これの欠点は、本がボロボロになることです。関学の本はすぐにボロボロになるのですが、それは学生が直接手に取って、自分で試行錯誤しながら本を借りていけるということです。これは結構、関学のいい点かと思います。

B2階に行ったことはありますか。ほとんど行ったことはないと思いますが、B2階はボタンを押したらウイーンと動くところがあ

って、あそこに僕はしょっちゅう潜っていました。すごく静かです。ああいうところも全部、学生が自分で行けます。

本を借り放題というの、もちろんありますし、電子ジャーナル、いわゆる一流雑誌と呼ばれるものが全部読み放題です。英語論文を今から読もうという人はそんなにいないと思いますが、『Nature』、『Science』といった雑誌も全部読み放題です。読もうと思って普通に買った数万円かかりますが、それも読み放題です。

図書館についてははそうだな、という感じだと思いますが、こういう言い方をすると他の先生は怒るかもしれませんが、教授も使い放題です。教授は雇おうと思ったらそれなりに金がかかりますが、皆さんは大学に4年間いる間は、教授の部屋にアポを取ったら行けますし、知りたいことを、いつでも聞けます。

うちの卒業した子は、4年生の秋学期になり、卒論が始まって僕の部屋に入り浸っていたのですが、「こんな大学の使い方を、もっと早く知りたかった」と言っていました。だから卒論で気になったこと、周道的に気になったことを、すぐ聞くわけ。いろいろ与太話をしながら、社会心理学の話や、「こんな研究あるよね」「こんな実験やったら面白い」というような話をするわけ。そういうことを結構楽しんでくれていますし、僕も結構楽しいわけ。そういう教授使い放題というのは、あまり皆さんは、まだピンとこないと思います。

教授というのは、アトラクションでやっているキャスト（ディズニーランドではスタッフのことをキャスト、来客をゲストと呼ぶ）のような感じで、あまり直接関わられるような

人ではないと、まだ思っていると思います。が、ゼミに入ったら、あるいはゼミに入らなくても、ぜひいろいろな教授を使ってみたいと思います。

大学の制度を活用しよう

先ほどは使い放題の話でしたが、2個目は制度を使いこなしてほしいということです。実は関学の制度は結構面白くて、—他の大学でもあるのかもかもしれませんが—、僕が驚いたのは、MS、MD という制度です。知っていますか。聞いたことはあると思いますが、マルチプル・スタディーズとマルチプル・ディグリーです。これは他学部の授業を、実はタダで履修することができます。しかも十字科目も取ることができます。すなわち、文学部の臨床心理学の実習の授業もMSを取れば受けることができます。ということは、社会学部にいながら公認心理師の資格に必要な単位も実は取ることができるのです。これはあまり言うとう文学部が困ると思うので、大っぴらに言うてはいけないのかもかもしれませんが、文学部に落ちて社会学部に来ても資格は取れるのです。これはタダでできます。もちろんGPAは要りますが、追加のお金はなく取れるという制度は素晴らしいことだと思います。

マルチプル・ディグリーという制度を使えば、実は他学部ゼミも取れます。学位も取れます。ということは、社会学部と文学部の総合心理だったら、社会学部の学位と同時に文学部を卒業するという学位も取ることができるわけです。これはすごいですね。そういうのが実はタダでできます。

いうならば、ディズニーランドの年間パス

と同時に、ディズニーシーの年間パスも手に入っているようなものだと思います。そのすごさが分かってもらえるかと思います。

あとは制度ではないのかもしれないけれども、社会学部には結構面白いいろいろな仕組みがあります。PS、PE というものがあります。ピア・スタディとピア・エデュケーションですね。ピア・スタディというのは、学生同士がいろいろ教え合う。千川のオリエンテーションに参加した人いると思いますが、あれはPSの活動の一つだったと思います。PE、ピア・エデュケーションといって、院生や学部生が研究会をやったり、そういう形で、お互いに教え合ったり学び合う仕組みがあります。

こういうのは、たぶんLUNAか何かで届くと思いますが、存在は聞いたことあるけれども、ほとんどの人はスルーしていると思います。せっかく年間パスを持っているのだから、2年生、3年生になって単位も取れてきたし、暇だとなってきたら、そういうのも、どのようなことをやっているのか、少しのぞいてみたらいいのではないかと思います。もちろん今からでもOKです。

これは、いわゆるキャスト側になるという話ですね。こっち側の体験もできる仕組みは他にも実はたくさんあります。LAですね。聞いたことがあると思いますが、秋学期になったら、みんな基礎演習に先輩がつくと思いますが、あれはGPAが高くないとできないのですが、実は裏道があって、大講義科目は教授の推薦でできますので、誰でもLAができるのです。そういう教える側の立場に立つことも体験できますし、院生と仲良くなったら、そういうこともいろいろ体験することが

できます。

大学に没入しよう

3つ目は何かというと、これもなかなか敷居が高いかもしれませんが、ディズニーランドってミッキーをつけている子がいますよね。ぬいぐるみも持っているし、あれで梅田を歩いていたら、さすがにびっくりしますね。そのときだからこそできるファッションがあります。ある種、関学も、ディズニーランドと同じように中から外が見えない仕組みというのは、そういう没入感、大学に来たときにできることに没入させる仕組みなのではないかと僕は思っています。

例えば何か人権のことについて語る。これを梅田のカフェですると、いわゆる意識高い大学生のように見えるかもしれません。あまり外で家族と話すのも少し真剣な顔をしないとできない話でも、大学の中ではみんな真剣な真面目な顔でやっています。それはたぶん、ずっと入ってこられるような環境。例えば5月にレインボーウィークがあって、そういうことをみんなで話し合う場や、人権の授業もたくさん大学にはあります。

例えば僕は恋愛の研究者ですが、30 すぎのおじさんが街なかで「愛とは何か」などと言っていたら、ちょっとアレかもしれませんが、大学なら真顔で言えます。そういうマジなことを、普通だったら「おっ」と思うようなことを、この場合だとできるということです。これは社会人になったら、なかなかできないのです。僕はアカデミックなところでしか過ごしていないのでやっていますけれども、やはりなかなか難しいことです。社会学部の例えば研究会をつくってみたりするの

も、ここだからできることです。学生会館に行けば話にくいかもしれませんが、こっち側のキャンパスのほうでやってみたら、ちょっと真面目にやってみる。話してみる。そういうある種の没入感を味わってもらうのも、いいのではないかと思います。

大学4年間使い放題はとても貴重なパスポート

実は僕は来週、企業の人を相手に統計の講義をやるのですが、そのときに受講生の払う受講料を聞いてびっくりしました。半日で4万円を払うと。大学の「データ分析応用」でやっている内容と一緒にことを言うのですが、社会人になったら、3コマ分ぐらいを、なんと4万円を払って受けないといけないのです。みんなも大学を卒業したら同じですよ。今、統計の勉強をタダで、一実際はタダではありませんが、今は使い放題ですが、企業に入ってやはりデータ分析が要るとなったときには、たった半日で、それだけのお金を払わなければいけないのです。それをみんなは今、何回でも受けることができます。

それだけではなく、ゼミに入ったときの卒論の指導というのは、絶対に本を読むだけでは身に付かないものだと思います。なぜかという、それは研究を、その場でやっていることを生で体験することだからです。本は研究された結果が出ていますが、今そこで研究することは本には書いていません。まさに新しい知を生み出すということは、ゼミに入らないとできないことです。これは今、口で言っても絶対分らない、体験しないと分らない面白さだと思うので、今まさにゼミを2年生は選び終わりましたね。これからの人も

いますか。1年生はまだ秋から、どこの専攻分野にしようかというときに、そういうことが待っているということも、楽しみにしてもらえばいいかと思います。

最後早口になりましたけれども、取りあえず今日僕がお話したかったのは、みなさんは4年間の年間パスポートを持っている。値段を知っている人もいると思いますが、安くはないですね。それをぜひ活用してほしい

と思います。それは授業料だけではないということです。いろいろなところにみんなが活用できるようなものがあることを、僕はぼろりと言いましたので、ぜひ皆さん、探してみてください。僕が話した以外にもたくさん見つかると思うので、それで学生生活を楽しんでもらえればいいかなと思います。

(社会学部教授)